中学校 2

平成10年度

教育研究員研究報告書

社　会

東京都教育委員会

平成10年度

教育研究員名簿（社会）

＜歴史的分野＞

区市町村名	学校名	氏名
品川区	東海中学校	◎ 瀬谷睦生
杉並区	東原中学校	富永裕子
練馬区	石神井東中学校	髙山知機
江戸川区	小岩第一中学校	石井千歳
立川市	立川第一中学校	宮沢孝至
府中市	府中第五中学校	小松崎友秋
稲城市	稲城第三中学校	藤村康信

＜公民的分野＞

区市町村名	学校名	氏名
港区	港南中学校	菅善蔵
江東区	亀戸中学校	西海正孝
大田区	大森第六中学校	木崎正和
中野区	第八中学校	舩木周
板橋区	中台中学校	鈴木裕行
日野市	平山中学校	○ 川井信義
東大和市	第一中学校	近江賢二

◎ 世話人　○ 副世話人

担当　指導部中学校教育指導課指導主事　木村俊二

研　究　主　題

社会的事象への関心を深め、主体的に学習に取り組む生徒を育てる指導法の工夫

目　　次

目　　次 …… 1

Ⅰ　研究主題設定の理由 …… 2

Ⅱ　研究の方法と内容 …… 2

Ⅲ　歴史的分野の研究内容 …… 3
1　研究構想図 …… 3
2　生徒の実態 …… 4
3　検証授業Ａ …… 5
(1)　指導計画 …… 5
(2)　本時の展開例 …… 6
(3)　授業の概要 …… 7
(4)　授業の考察 …… 7
4　検証授業Ｂ …… 8
(1)　指導計画 …… 8
(2)　本時の展開例 …… 9
(3)　授業の概要 …… 10
(4)　授業の考察 …… 10
5　研究のまとめと今後の課題 …… 12

Ⅳ　公民的分野の研究内容 …… 13
1　研究構想図 …… 13
2　生徒の実態 …… 14
3　検証授業Ａ …… 15
(1)　指導計画 …… 15
(2)　本時の展開例 …… 16
(3)　授業の概要 …… 17
(4)　授業の考察 …… 18
4　検証授業Ｂ …… 19
(1)　指導計画 …… 19
(2)　本時の展開例 …… 20
(3)　授業の概要 …… 21
(4)　授業の考察 …… 22
5　研究のまとめと今後の課題 …… 23

Ⅰ　研究主題設定の理由

今日の日本の社会は、国際化、情報化、高齢化などの急速な進展に伴い、さまざまな課題が山積している。また、近年の我が国の経済状況の動向は、国民の生活や意識にも大きな影響を及ぼしている。このような社会に生きる中学生が、日常生活の中で起きているさまざまな社会的事象への関心を深めるとともに、主体的にかかわりながら判断し、行動できる態度を育てることは、21世紀の「国際社会に生きる民主的、平和的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う」ことにつながるものであると考える。

しかしながら、今日の中学生の状況は、必ずしも社会的事象に対して旺盛な興味や関心をもって主体的に考えたり、判断したり、行動するということが十分にできているとは言えない面も見受けられる。一方、これまでの中学校における社会科においては、「知識詰め込みや暗記中心の授業が多い」との指摘もある。また、社会科の学習で学ぶ内容を、「生徒は覚えようとするだけで、自分の生活のかかわりや将来の生き方につなげて考えていないのではないか」という意見もある。

中学校の社会科において以上述べたような学習や生徒の状況があることを踏まえ、学習内容を単なる「知識」にとどめないで、生徒の日常生活の中で起こる社会的事象との関連で考えさせたり、将来の生き方につながるものとして主体的に受け止めさせるための指導法を開発することをめざして、本研究主題を設定した。

Ⅱ　研究の方法と内容

(1)　研究の方法

研究を進めるに当たって、「歴史的分野」と「公民的分野」の２分科会を設置し、それぞれの研究主題を次のように設定した。

①　歴史的分野……「過去の出来事から今の社会を学び、積極的な熱意をもってこれからの社会について考える授業の工夫」

②　公民的分野……「現代社会の諸問題を自分とのかかわりでとらえ、主体的に生きようとする意欲や態度を育てる指導法の工夫」

(2)　研究の内容

①　歴史的分野……鎌倉時代における武士と農民の生活に着目させ、生徒の主体的な学習活動を促すための「班による調べ学習」及び「ディベートを用いた話し合い活動」を取り入れ、指導法の工夫について研究する。

②　公民的分野……生徒にとって身近な題材である「家族」及び将来の生き方と深いかかわりのある「勤労の権利や義務」にかかわる学習を題材とし、体験的活動を取り入れた指導法の工夫について研究する。

Ⅲ　歴史的分野の研究内容

1．研究構想図

共通研究主題

主体的な学習活動を通して、「生きる力」をはぐくむ指導の工夫

社会科研究主題

社会的事象への関心を深め、主体的に学習に取り組む生徒を育てる指導法の工夫

生徒の実態（意識調査）

- 歴史学習が生活に結び付く学習としてとらえられていない。
- 歴史学習を【暗記物】としてとらえている傾向がある。
- 時代名の配列は大半の生徒ができている。
- これからの社会について悲観的な考えを持つ生徒が多い。
- 歴史への興味・関心は授業の影響が大きい。
- 社会科の授業に対する生徒の期待は大きい。

歴史的分野 研究主題

過去の出来事から今の社会を学び、積極的な熱意をもってこれからの社会について考える授業の工夫

これからの社会を生きる生徒に育てたい能力・態度

- 世界の歴史を背景に、国民として我が国の文化と伝統の特色を広い視野に立って考える力
- 歴史学習を通して各時代が今日の社会的事象や生活に及ぼしている影響を多角的に考えようとする態度
- これからの社会を前向きに考えるために、歴史的事象を資料に基づいて公正に判断し、適切に表現する能力
- 様々なことに関心をもちながら、困難な状況も主体的に解決していこうとする態度

研究のねらい

生徒が歴史的事象を多角的にとらえ、主体的に考えていく授業の工夫を行う。そのため調査や意見を交換する活動を重視して今日の社会的事象や生活について理解し、これからの社会の在り方を考える態度を育てる。

研究の仮説

「生活者として共感できるもの」を過去の出来事の中に見つけて、それをもとにして、コミュニケーション活動を重視した歴史学習を行えば、生徒がこれからの社会で社会的事象を主体的に考えていこうとする態度が育つであろう。

研究の方法

- 個人および班単位での課題解決のため調べ学習や資料分析を取り入れた授業を行う。
- 生徒の話し合いを進め意見交換へとつなげる授業を行う。
- 調査を実施し、生徒の意識の変化を分析しながら研究全体の評価を行う。

2．生徒の実態

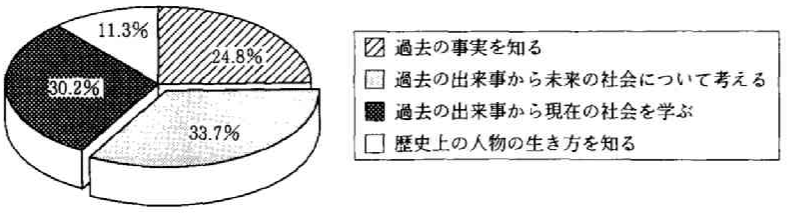
研究を進めるに当たって、生徒の歴史学習についての実態を把握するために、下記のとおり調査を行い、その結果について以下のように分析した。

(1) 調査対象、研究員の所属する中学校14校　第１学年から第３学年を対象　総計1,300名

(2) 調査方法　アンケート形式による記述

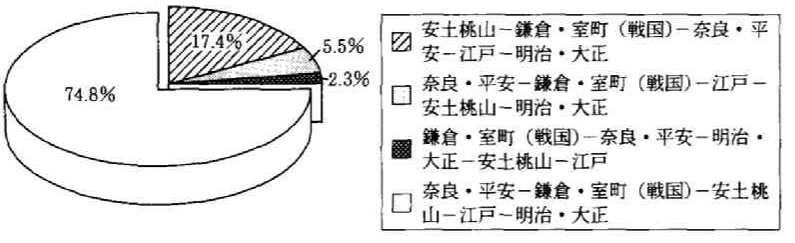
(3) 調査の内容及び結果

① 歴史の学習は何のためにするのだと思いますか？（一つを選択する）



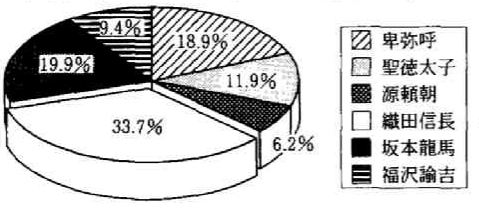
歴史学習の意義は理解しているが、身近な「生活に結びつく学習」として、とらえきれていない。

② 日本の時代名の正しい配列を選びなさい。（一つを選択する）

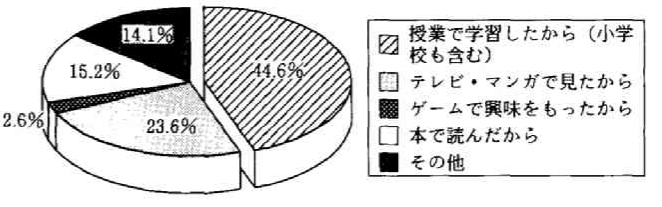


時代名の配列は【暗記物】として覚えていることが多く、内容や流れの理解については把握できなかった。

③ i 歴史上の人物の中で、印象に残っている人物は誰ですか？（一人を選択する）

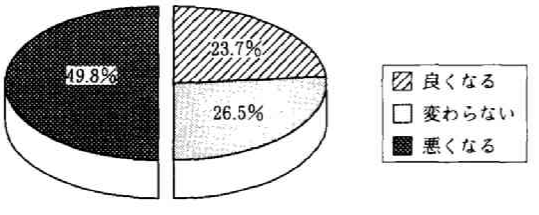


ii その人物を選んだ理由は何ですか？（一つを選択する）



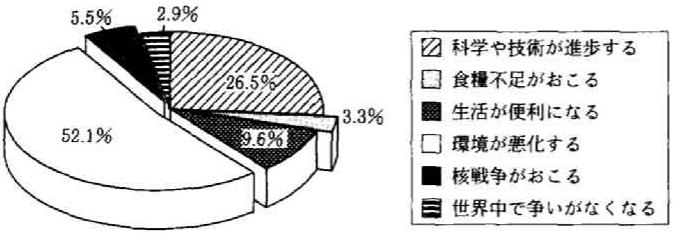
授業からの影響が生徒には予想以上に強いという結果が出た。

④ 21世紀の社会は今より良くなると思いますか？（一つを選択する）



21世紀の社会に対しては、多くの生徒が悲観的に見ていると言える。

⑤ 21世紀の社会は、どうなると思いますか？（一つを選択する）



これからの社会を発展的にとらえている生徒と、悪化するととらえている生徒の比率が４対６となっている。このことから、各分野での人類の進歩を予測している反面、環境破壊など悪化の方向に進むと予測している。

3．検証授業Ａ

(1) 指導計画

① 単 元 名 「武家政治のはじまり」

（鎌倉幕府の誕生・幕府政治の発展・武士と農民の生活・蒙古襲来）

② 単元設定の理由

鎌倉幕府が成立したことにより、武家と公家の政権が東西に併存した。その後の、武家政治が次第に実権を強めていく過程を、上皇・天皇（朝廷）、武士、農民それぞれの立場から考えさせ、現代との生活と関連させながら鎌倉時代の特色と変化をつかませる。

③ 単元の指導目標

ア．武士、農民を中心とした人々の生活の変容を、当時の人々の立場に立って考えることにより今日の社会的事象（人と人とのかかわり）やこれからの生活に及ぼしていく影響を多角的に考察させる。

イ．源平の争乱を経て成立した鎌倉幕府が武家政治の始まりであることを、土地を仲立ちとした封建制度のしくみを明らかにしながらとらえさせ、今日の土地に対する考えを意見交換させる。

ウ．承久の乱が東国の御家人に大きな影響を与えたことをおさえ、朝廷と幕府の力関係が大きく変わり、西国に幕府支配が及ぶようになったことを理解させる。

エ．農業の進歩は産業の発展を生み、商業活動が盛んとなったことに関心をもたせ、今日の農業に与えた影響について考えさせる。

オ．モンゴル襲来のもつ歴史的意義を、東アジア全体の中でとらえさせ、鎌倉幕府に与えた影響を考えさせながら今後の外圧について予想させる。

④ 単元の指導計画（５時間構成）

時	主な学習内容	主体的なとりくみとねらい
1時	①鎌倉時代の生活を予想 ア）武士 ・源氏の反撃 ・血縁を越える強固な集団形成 イ）農民 ・荘園領主・地頭の圧力 ・農業技術の工夫	◎「平氏にあらずんば人にあらず」という平氏全盛期の中、彼らに反発する人たちの心情をつかませる。 ◎源氏の血縁を越える縦のつながりに気付かせる。 ◎農民たちがよりよい暮らしを求めて努力していく姿をとらえさせる。
2・3時	②武士、農民それぞれの生活について調べる。	◎テーマにそってグループごとに適切な資料を収集し、それぞれの立場に立った表現で発表資料を作成させる。
4時〈本時〉	③鎌倉時代の人々の生活について考える。 ア）武士 イ）農民	◎それぞれのテーマに沿って的確な資料を使って、わかりやすく発表させる。 ◎友達の発表に耳を傾け、意欲をもって話し合い活動に参加させる。 ◎発表や話し合い活動に前向きに参加し、予想や疑問点を自分なりに整理させる。
5時	④鎌倉時代全体のまとめ	◎蒙古襲来のビデオを見て全体の流れを確認させる。 ◎基本的な事項について整理し、ワークシートを完成させる。

⑤ 単元の評価基準

ア．社会的事象への関心・意欲・態度

鎌倉幕府の推移や人々の生活の中から生活者として共感できるものに関心をもち、資料の収集や読み取り、発表原稿の作成や話し合い等の活動に意欲的に取り組む。

【評価方法】 発言分析 活動観察 作品分析

イ．社会的な思考・判断

鎌倉幕府の推移や人々の生活の特色には、武家政治特有の御家人制度や守護・地頭などの社会的背景があることを多角的に考察する。

【評価方法】 発言分析 作品分析

ウ．資料活用の技能・表現

鎌倉幕府の推移や人々の生活を様々な資料から読み取り、発表原稿やワークシート、話し合い活動等で表現する。

【評価方法】 発言分析 活動観察 作品分析

エ．社会的事象についての知識・理解

武家政治の特色や生活の変化を、鎌倉時代の人々の生きる力を通して理解する。

【評価方法】発言分析 作品分析

⑥ 本時の指導目標

人々の生活を通して「武家政治のはじまり」について興味や関心をもたせ、『生活者として共感できるもの』をその中から見つけ、お互いに意見を交換することにより、これからの社会について考えさせる。

(2) 本時の展開例

《前時の学習》鎌倉時代の人々の生活について、テーマに沿いながらグループごとに適切な資料を収集し、それぞれの立場に立った表現で発表資料を作成する。

学習内容と目標	主な学習活動と形態	教師の支援	評価規準と方法	資料・留意点
1．武士の生活について発表する。 源平の争乱を経て成立した、鎌倉幕府が歴史上初の武家政権だということを理解する。	(1) 各班の代表者の発表を聞き新たに気づいた点や疑問に思った内容をワークシートにまとめる。【個別】 (2) 疑問に思った点を、それぞれが質問し各班で気が付いたことを発表する。【個別】 (3) 各班の代表者や他の生徒との話し合い活動の中から、武士の生活について気付いたことをワークシートに付け加える。【一斉】	(1)・(2) 発表・質問の仕方について助言する。 (3) 発表・質問の仕方から多角的見方やすぐれた考えに気付かせる。	(1)・(2) 関心・意欲・態度 友達の作成した資料を活用することにより、武士の生活について様々な特色が読みとれることに関心を持つ。 B評価…気が付いた点を記録している。 （観察・ワークシートの分析から） (3) 関心・意欲・態度、思考・判断 友達の意見を吸収しながら、ワークシートに自分の考えと違う点を記録している。 B評価…一つ記録する。 （観察・ワークシートの分析から）	(1)〜(8) ・前日に配布した資料 ・ワークシート
2．農民の生活について発表する。 農民の生活は武家政権の成立で安定してくるのか、資料をもとに説明できるようにする。 	(4) 各班の代表者の発表を聞き新たに気付いた点や疑問に思った内容をワークシートにまとめる。【個別】 (5) 疑問に思った点を、それぞれが質問し各班で気が付いたことを発表する。【個別】 (6) 各班の代表者や他の生徒との話し合い活動の中から、農民の生活について気付いたことをワークシートに付け加える。【一斉】	(4)・(5) 発表・質問の仕方について助言する。 (6) 発表・質問の仕方から多角的見方やすぐれた考えに気付かせる。	(4)・(5) 関心・意欲・態度、知識・理解 友達の作成した資料を活用することにより、農民の生活につい様々な特色が読みとれることに関心をもつ。 B評価…気が付いた点を記録している。 （観察・ワークシートの分析から） (6) 関心・意欲・態度、思考・判断 友達の意見を取り入れながら、ワークシートに自分の考えと違う点を記録している。 B評価…一つ記録する。 （観察・ワークシートの分析から）	
3．武士・農民それぞれの立場に立って学習したことを踏まえて、これからの社会について考える。 これからの社会の変化を予想できることに気づかせる。	(7) 鎌倉時代に生きた人々の生活（調べた内容）を踏まえ、次の時代や今日の生活に与えている影響を感想としてワークシートに整理する。【一斉】 (8) 次の時代や今日の生活に与えている影響を発表する。【個別】	(7)・(8) 生徒の調べた内容を評価するとともに、現在の生活の中で共通する部分が見つけられるよう個別に助言する。	(7)・(8) 関心・意欲・態度、思考・判断 友達の作成した資料や話し合い活動から知り得た情報を整理し、次の時代や今日の生活の中で感じるものをワークシートに記入する。 B評価…一つ記録する。 （観察・ワークシートの分析から）	

《今後の学習》『武士のおこりから蒙古襲来』のビデオを見て全体の流れを確認させ、鎌倉時代の人々の生活についての様々な見方・考え方をワークシートにまとめる。

(3) 授業の概要

鎌倉時代の人々の生活についてまとめ、意見交換を行った。前時までに「武士の生活」、「農民の生活」について、班（3班ずつ）ごとに発表用資料を作成しており、本時はその発表から始めた。授業は班の発表を聞いて各自ワークシートにまとめ、疑問点を出し合い、それに対して各班が答えを返すという形で進められた。

まず、「武士班」からは、「守護・地頭について」「主従関係（血縁関係以外の関係）について」「幕府・朝廷の二重支配」「武士の住居」などについて説明があり、それに対して「農民班」から「御恩として与える土地はどこから得るのか」「いくら武士が土地をもらってやる気になっても農民はやる気にならないのではないか」などの質問が出された。

次に、また、「農民班」からは、「重税に苦しみながらも、開墾を進めて生産を向上させたこと」「不定期だが市が行われたこと」「農民の住居の様子」などの説明があり、それに対して「武士班」から「豊作祈願の儀式（田楽おどり）が行われたとあるが、重い税負担のなかでそんな余裕があったのか」「新しい土地の開墾とあるが、勝手にやってもよかったのか」などの質問があった。全体的には、武士や農民の立場からの発言が活発になされたが、一方、それらに対して、的確に回答できる生徒は少なかった。

(4) 授業の考察

① 「生活者の視点」について

生徒の作成した資料には、当時の武士や農民の生活の様子に目を向けたものがあり、家屋の比較などから収入の違いを述べていた。また、それぞれの発表に対する質問では「自分ならどうするか」という生活している者の立場に立ったものが多く出された。課題としては、発表や質問の中に今日の社会生活や事象につながるものがあるにもかかわらず、その関連性を生徒達の生活感や意識に基づいて的確に表現することができないということである。歴史的事象をどのように生活者レベルにおろし、現代につなげるかが課題である。

② 「コミュニケーション活動の重視」について

自分達で主体的に調べたことで、時代の本質をとらえた質問が多く出された。また、質疑応答でも積極的な発言が出され、大変活発であった。ただし、発表内容をあらかじめ精選しておけば、より集中した質疑応答になったのではないかと思われる。さらに、発表と質問とその質問に対する答えを考える時間（班内でのコミュニケーション）を入れるともっとまとまって答えられたし、コミュニケーションの場面をひろげられたかもしれない。また、質疑応答の中から生活感や現代に通じる点を取り上げ、意見を交換し合う時間をもってもよかったのではないか。

③ 「これからの社会について考える」ことについて

過去の出来事調べで終わることなく、今日の生活との関連を考えさせ、そこで生徒達の意見や感想がコミュニケーション活動に生かされれば研究主題に迫れたと思う。また、「農民への質問ばかりだった」のは興味深い。これは、現代に武士は存在しないが、農民は存在しているということから身近に考えやすいことも影響しているのかもしれない。授業の中で、今日の農民と鎌倉時代の農民との違いを考えさせた方がより主題に迫る授業になったと思われる。

4．検証授業Ｂ

(1) 指導計画

① 単元名「鎌倉幕府の成立と鎌倉文化」

② 単元の指導目標

ア．武士の支配が次第に全国に及んでいく大きな流れを理解させる。

▷［方法］視聴覚資料を活用し、感覚的に理解させる。

イ．武士や庶民の生活が向上し、庶民文化の芽生えがあったことを理解させる。

▷［方法］現代に通じる“豊かな生活”について興味関心を生かして調べさせる。

ウ．生徒同士のコミュニケーション活動を深める学習を工夫する。

▷［方法］ディベート的手法を導入し、“多様な歴史認識の中での学び方”を学ばせる。

③ 単元の指導計画（７時間）　※観点【関心意欲】［思考判断］《資料活用》〈知識理解〉

時数	学習内容	学習活動《一斉》【個別】	評価の観点の方法
第1時	『平家物語』と源平の争乱	(1) 『平曲(国語指導ＣＤ)』を聴き《一斉》、当時の人々に支持された理由を考える【個別記入】⇨ 意見交換 (2) 『平家物語(ＮＨＫ人形劇)』を観て《一斉》、源氏への期待が高まった理由を考える【個別記入】⇨ 意見交換	『おごれる平家』に対する庶民の無常観を耳で、東大寺を焼かれた憤りを目で感じとれるか。 (【関心】［思考］〈知識〉 ▷作品発言分析)
第2時	「将軍」源頼朝と御家人 鎌倉時代の生活（Ⅰ）	(1) 「壇の浦」「鎌倉」を地図帳で調べ【個別】、滅びゆく平家と幕府を旗揚げする源氏との政権交代を概観する《一斉》⇨ 意見交換 (2) 討論希望サイドを選び、申し込み書を提出。 **論題「武士と農民のどちらが豊かだったか」**	平家で生き残った建礼門院徳子や、弟を追討した源頼朝など、家族の立場で考え、自分の家族の現実と比較できるか。 (【関心】［思考］▷発言分析) 自分の興味を生かしたテーマ設定、追求ができるか。 (【関心】　▷班活動分析)

時数	学習内容	学習活動	評価の観点と方法
第3時～4時	鎌倉時代の生活（Ⅱ）（Ⅲ）	(1) 自分サイドの論拠、相手サイドの問題点を、「図書室」で調べ、「立論プリント」を作成する（グループ） (2) ディベートでの役割分担を決める（グループ） ▷①立論者　②質問反論者　③応答者　④最終弁論者　⑤プリント作成者	説得力のある資料を探索作成できるか。 (【関心】［思考］《資料》〈知識〉▷班活動作品分析)
第5時	鎌倉時代の生活（Ⅳ）	**★本時の指導（視聴覚室でディベート）**	説得力ある表現ができるか。 (【関心】［思考］《資料》〈知識〉▷発言分析)
第6時	北条政子と御家人承久の乱と新補地頭	(1) 「学習マンガ（集英社版日本の歴史⑦Ｐ82～95」を読み（個別)、「２～３代将軍」が追放、暗殺された理由を考える【個別記入】⇨意見交換 (2) 『吾妻鏡【教科書Ｐ79】』をクラスの適任者に読んでもらい《一斉》、自分が御家人なら公武どちらにつくか考える【個別記入】⇨意見交換 (3) 「承久の乱」の結果を調べる⇨プリント記入【個別】⇨意見交換《一斉》	事件の真相を推理できるか。 (【関心】［思考］《資料》〈知識〉▷発言分析) 歴史上人物のキャラクターを自分の周囲に探せるか。 西国の地頭に東国の御家人が任命された意義を理解できるか。 (【関心】［思考］《資料》〈知識〉▷作品発言分析)
第7時	戦乱飢饉と新仏教鎌倉文化	(1) 『餓鬼草紙』を見て当時の空腹感を味わう。 (2) 新仏教の方法（念仏、題目、座禅など）の実行しやすさが庶民を救ったことに気付く。 (3) 建築や文学の中に「武家風」を探す。	前時までの「豊かな生活」と対照的に考えられるか。 (［思考］《資料》〈知識〉▷発言分析) 武士の文化を実感できるか。

(2) 本時の展開例

① 本時の指導目標と仮説検証のポイント

ア．生活者の視点

▷「豊かな生活」を考えることで、鎌倉時代の生活を身近なものに引き付ける。

イ．コミュニケーション活動の重視

▷自分の興味に応じたサイドを選ばせ、希望に応じたグループをつくらせる。

▷立論内容を精選させ、作戦タイムを設け、質問と応答のやりとりの時間を確保する。

▷司会を生徒に担当させ、自主的に討論会を運営させ、マナーやルールを身に付けさせる。

ウ．これからの社会について考える

▷「豊かな生活」について意見交換することで、多様な価値観を学び、生き方や職業意識、時代の風潮について考えさせる。

② 本時の展開（予察案）：論題「鎌倉時代、武士と農民のどちらが豊かだったか」

過程	T１支援	学　習　活　動	T２支援	評価の観点と方法
導入	司会を支援。	◆入場着席［1分］ 視聴覚室入口で「プリント一式」を受け取り、両サイドに着席する。 ◆司会生徒の開会宣言［1分］ 論題を読み上げ、進行上のルールとマナーについて注意しておく。	審判団に判定用紙を説明。	▷本鈴で着席できたか。昼休みにリハーサルしていたか。 【関心】 ▷集合状況分析
展開	司会生徒進行支援（通し） ▼ 農民側の聞く姿勢を巡視 農民側の立論を支援	**①武士側の立論【6分】** ▷司会は立論したい班を募る。挙手がなければ指名する。 ▷立論者（班2名）は立論席で発表する。必要ならばプロジェクターで証拠資料を提示。 ▷立論は各班2分以内とし、超過したら計時係がチャイムで警告する。 ▷時間内に立論できなかった班については「作戦タイム」にプリントを確認させる。 《予察される立論内容》 武芸で強い・屋敷が武家造り・一族の団結が固い・頼朝の御恩が厚い・給料 **②農民側の立論【6分】** 《予察される立論内容》 二毛作できた・戦わないから・定期市を開いた・牛馬や鉄製農具を使った	**プロジェクター操作支援**（通し） ▼ 武士側の立論支援 武士側の聞く姿勢を巡視	▷熱意をもって挙手できたか。 【関心】 ▷挙手状況分析 ▷わかりやすい立論ができたか。 ▷説得力のある立論ができたか。 ▷現代に通じる豊かさに迫っていたか。 【関心】［思考］ 《資料》〈知識〉 ▷発言、作品、審判判定用紙分析
	農民側の質問立論の支援	**◆作戦タイム［4分］** ▷相手の立論内容について質問を検討。 ▷相手からの質問を予想して答えを検討。	武士側の質問反論の支援	▷チームワークよく相談できたか。
	司会生徒進行支援に重点	**③武士側への質問【8分】** ▷司会は質問したい班を募る。挙手がなければ指名する。 ▷質問者（班1名）は自席で発言する。必要ならばプロジェクターで証拠資料を提示。 ▷応答者は自席で発言する。周囲の自分サイドの生徒と相談する。挙手がなければ司会が指名する。 ▷応答不可能な場合は深入りせずに「もう少し時間をください」で打ち切り、可能なら、次の作戦タイムを経て、最終弁論で応答する。 《予察される質問内容》 戦死覚悟で豊かな生活か・給料は高かったか・農民が逃散したら生活できるか **④農民側への質問【8分】** 《予察される質問内容》 二毛作は全国的だったか・武器をもたないで安全か・飢饉疫病はなかったか。	武士側の応答の支援	▷鋭い質問ができたか。 ▷チームワークよく相談できたか。 ▷説得力のある等々ができたか。 【関心】［思考］ 《資料》〈知識〉 ▷発言、審判判定用紙分析
	農民側の最終弁論を支援	**◆作戦タイム［4分］** ▷答えきれなかった内容について相談し、まとまれば最終弁論に付け加える。	武士側の最終弁論を支援	
		⑤武士側最終弁論［2分］ ▷最後に強調したいことがある班のみ挙手して発言する。 **⑥農民側最終弁論［2分］**		▷作戦タイムの相談内容を最終弁論に生かせたか。
まとめ	司会生徒を支援 講評Ⅱ	**◆審査集計［4分］** ▷その間に生徒はノートに感想を記入。 ▷審判団は勝者を綜合判定。司会は審査用紙を回収し、1枚ずつ勝者を発表する。 **⑥判定と講評［2分］** ▷ノーサイドを味わい、お互いのサイドへの拍手で激戦を認め合う。	講評Ⅰ	ノーサイドを実感できたか。

③ 評価

ア．ディベート的な学習に意欲的に参加し、意見交換しあう学習に興味をもつことができたか。

イ．現代にも通じる豊かさ（物質面と精神面）に迫ることができたか。

(3) 授業の概要〈指導計画の第５時〉

学　習　活　動	学　習　活　動　の　内　容　等
① 両サイドの立論	（武士側）武士の屋敷をＴＶに写しだし、物質的な豊かさを主張。 （農民側）田植えの風景をＴＶに写しだし、生活を楽しんでいたことを主張。
② 作戦タイム	二人の先生がそれぞれ両サイドに分かれ生徒にアドバイスを行う。
③ 相手への反論と応答	（農民側）「武士は戦いで死んだらおしまい」などの意見。 （武士側）「武士が農民を守っているんだ」との意見が相次ぐ。 （武士側）「武士が農民の監督をしている」 （農民側）「武士は戦いがないとお金がもらえない、農民が税を払うから武士は生きていける」
④ 作戦タイム	
⑤ 最終弁論	弁論終了後、双方の健闘を讃えて拍手。
⑥ 審査集計	僅差で農民側の勝利。先生からの講評

(4) 授業の考察

① 「生活者の視点」について

「豊かな生活」というポイントをしぼったテーマを設定したので、多くの生徒が興味をもって取り組むことができた。生徒が作成した資料の中に、生活者としての視点が見出せるもの（住居や家具等）も見られた。自分の生活から考えての意見（良い家に住みたい。貧しくても楽しい生活がよい。死の恐怖がないのが幸せ。など）が多数出され、この時代の生活が身近なものとなった。下記のポイントを踏まえたテーマ設定がよかったと思われる。

② 「コミュニケーション活動の重視」について

ディベートという授業形態で時間を確保し、生徒司会による雰囲気づくりや好きな方を選ばせたことにより、質問・意見をみんながのびのびとできる雰囲気の中で、生徒が引き込まれて自分の考えを発表しようとする意欲がはっきりと見られた。また、Ｔ・Ｔにより細かな助言ができたことや、マイクを仲間にまわすことによる連帯感の醸成なども授業を活発なものにしていた。しかし、資料を生かしきれずに憶測による感情的な意見が出される傾向もあり、やはり司会は教師が行った方がかみあった討論になったのではないかと思われる。

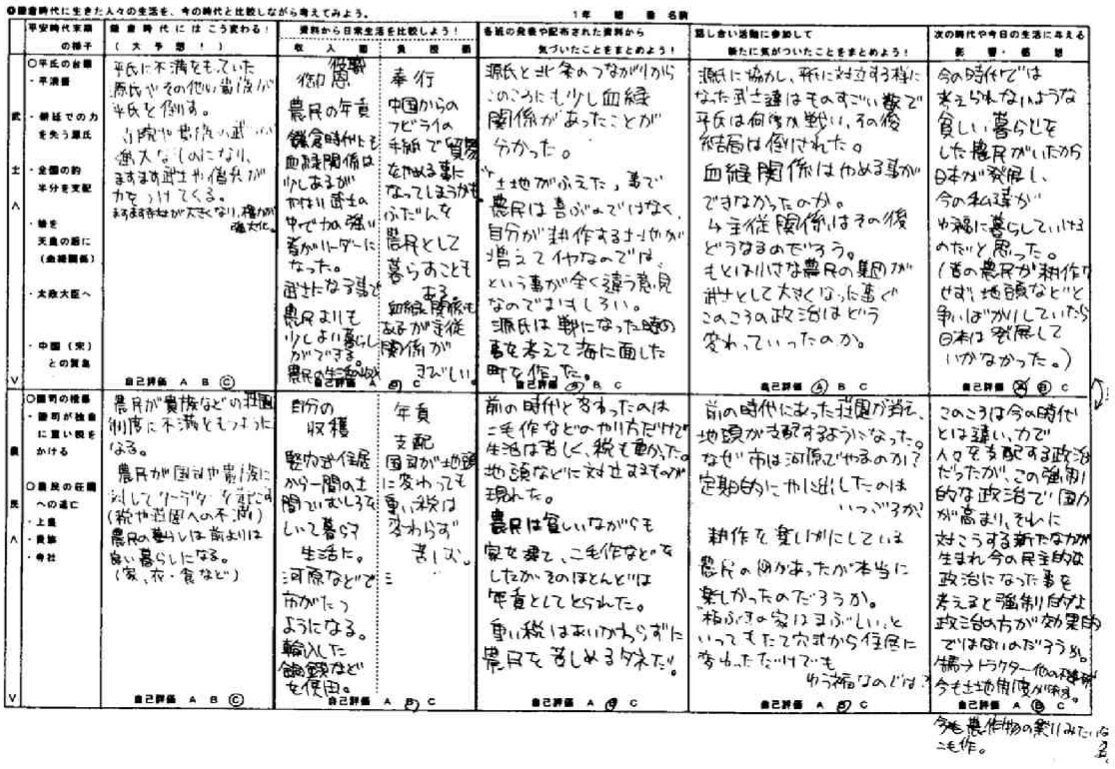
③ 「これからの社会について考える」ことについて

農民側に立つ生徒の中からは、「農民の方が生活に自由さがあるから豊かだ」という意見を発表しており、現代に通じる精神的な豊かさを指摘していた。したがって、日常の授業の中でも教師がそのような意見を評価し、それがこれからの社会を考えていく上でもつ意義を指摘することが大切であり、くり返しこのような授業をやっていく必要がある。

＜資　料＞

1．検証授業Ａ　生徒資料

（ワークシート例）



	平安時代末期の様子	鎌倉時代にはこう変わる！（大予想！）	資料から日常生活を比較しよう！ 収入面	資料から日常生活を比較しよう！ 負担面	各班の発表や配布された資料から気づいたことをまとめよう！	話し合い活動に参加して新たに気がついたことをまとめよう！	次の時代や今日の生活に考える 影響・感想
武士	○平氏の台頭 ・平清盛 ・朝廷での力を失う源氏 ・全国の約半分を支配 ・娘を天皇の妃に（血縁関係） ・太政大臣へ ・中国（宋）との貿易	平氏に不満をもっていた源氏やその他の豪族が平氏を倒す。 有力な豪族が武士の御家人になりまする武士や農民がかをうけてくる。 武士の力が大きくなり、権力が強くなる。	御恩 農民の年貢 鎌倉時代にも血縁関係は少しあるがかなり武士の中で力の強い者がトップになった。 武士たちは農民よりも少しよい暮しができる。 農民の生活は変わらず	奉行 中国からのフビライの手紙で貿易をかける事になってしまうかもふたんを農民として暮らすことも ある 血縁関係もあるが主従関係がまだ強い。	源氏と北条のつながりからこのころにも少し血縁関係があったことが分かった。 「土地がふえた」事で農民は喜ぶのではなく、自分が耕作する土地が増えて行くのでは。 という事が全く違う意見なのではないしろい。 源氏は戦になった時の事を考えて海に面した町を作った。	源氏に協力し、新に対立する様になった武士達はそのすごい数で平氏は何度か戦い、その後結局は倒された。 血縁関係はわかる事ができなかったのか。 主従関係はその後どうなるのでろう。 もともとは農民の集団が武士として大きくなった事でこのころの政治はどう変わっていったのか。	今の時代では考えられないような貧しい暮らしをした農民がいたから日本が発展し、今の私達が裕福に暮らしていけるのだと思った。 （昔の農民が耕作せず、地頭などと争いばかりしていたら日本は発展していかなかった。）
農民	○荘園の増加 ・荘園が独自に直い税をかける ○農民の荘園への逃亡 ・上皇 ・貴族 ・寺社	農民が貴族などの荘園制度に不満をもつようになる。 農民が「国司や貴族」に対してリーダーを選び（税や荘園への不満） 農民の暮らしは前よりは良い暮らしになる。 （家、衣・食など）	自分の収穫 竪穴住居から一階の土間でおしろを して暮らす生活。 河原などで布がたつようになる。 輸入した銅銭などを使用。	年貢 支配 国司が地頭に変わっても重い税は変わらず苦しい。	前の時代と変わったのは二毛作などのかり方だけで生活は苦しく、税も重かった。 地頭などに対抗するものが現れた。 農民は貧しいながらも家を建て、二毛作などをしたかそのほとんどは年貢としてとられた。 重い税はおいかわらずの農民を苦しめる存在だ。	前の時代にあった荘園が消え、地頭が支配するようになった。 なぜ市は河原でやるのか？ 定期的に市に出したのはいつごろか？ 耕作を楽しがにしていた農民の姿があったが本当に楽しかったのだろうか。 掘ったの家はまぶしい、といってもたて穴住居から住居に変わっただけでもゆう福なのだ。	このころは今の時代とは違い、力で人々を支配する政治だったが、この強制的な政治で国力が高まり、それに対こうする新たなかが生まれ今の民主的な政治になった事を考えると強制的な政治の方が効果的ではないのだろうか。 （鎌→トラクター他の機械が今も土地開墾が残る。）

自己評価　A　B　C

今も農作物の実りみたいなこも作。

2．検証授業Ｂ　「鎌倉時代、武士と農民のどちらが豊かだったか」生徒の感想例

《武士サイド》

ディベートをしての感想
○もっとたくさん言いたいことがあったのに全部言えなくてすごくくやしい。
今度ディベートする時は、もっと時間がたくさん欲しい。何時間でも言い合いできたと思う。質問の答えがかえってこなかったのもくやしい。
もっと反論したかった。

感想
今日、リベートをやって 予想以上がはずかしくて言えなかった。
資料もいっぱいあったのに出せなくてだめだなぁ。と思った。
もしまた以ような事があったら、今度はバシバシ言ってやろう——!!

とてもたのしかった。
いいたい事がたくさん言えてよかった。
最後に「農民は豊かです！」
といってしまってはずかしかったけど。
楽にたのしかった。
まけちゃったけどよかった。

負けたけど農民のいいところと武士のいいところなどいろいろわかってよかったし結こう楽しかった。

《農民サイド》

農業のことをしらべていたら豊だと思っていたけど、武士のいけんを聞いて、どっちも豊だと思った。

キうすこしたくさんいいたかった。
農民はやっぱり豊かだとこれでわかった気がする。でもあっわれそうだなって思うこともあった。また戦ってみたい。

発言は（数や時間が決まっていてうまくできなかったけれど思ったより最後のつちに意見がぶつけ合っておごともえました。おごと深くまで考えられてよかった。最後は農民が勝ったのであごとうれしかった。農民も武士も頑張ったと思う。またやりたいなあ。と思った。

てもおもしろかった。こうやって武士や農民のことに考えるのもおもしろかった。

5　研究のまとめと今後の課題

(1)　研究のまとめ

歴史的分野分科会では、12世紀から13世紀にかけて武家政治がしだいに実権を強めていく時代における武士と農民の生活を「豊かさ」という視点から考えさせることを通して、現代の生活と関連させながら鎌倉時代の特色と変化をつかませることをねらいとして研究を進めた。そのために、コミュニケーション活動を重視した2回の検証授業を行い、以下のような点が明らかとなった。

①　主体的な学習活動について

「調べ学習」においては、多くのグループが学校の図書室や地域の図書館等で教科書以外の資料を熱心に収集していた。この点からも「調べ学習」は、生徒の主体的な学習を促す上で効果的であることがわかった。

②　コミュニケーション活動について

発表学習やディベートを取り入れた授業において、生徒は予想以上に活発な発言を行っていた。これは、質疑応答やディベート的手法（立論や作戦タイム）を通じて生徒同士のコミュニケーション活動が活発に行われることによるものと考えられる。また、ディベートを取り入れた授業では、その特性上、生徒は勝敗を意識するために、コミュニケーション活動を土台とするチームワークが生み出されることがわかった。

③　「生活者の視点」及び「これからの社会について考える」ことについて

ディベートを取り入れた授業においては、武士と農民の立場に立って「生活の豊かさ」について考えさせたが、生徒の中には「衣食住」など物質的な面での武士の豊かさに見い出す者もいたが、一方、「戦いにおける死」や「家族生活」など精神的な面から農民の豊かさについて発言する者もあった。このことから、生徒は無意識のうちに「豊かさ」を現代にも通ずる「人間らしい生き方」の中に見い出そうとしていることがわかった。また、このことは研究のねらいである過去の出来事の中から「生活者として共感できるもの」を発見させ、コミュニケーション活動を重視した歴史学習を行えば、生徒が社会的事象を主体的に考えていこうとする態度を培うことができることを示していると言えよう。

(2)　今後の課題

①　主体的な学習としての「調べ学習」の充実について

「調べ学習」を充実していくためには、「学習室」及び「学習情報室」としての学校図書室の条件整備が不可欠である。また、地域図書館等社会教育関係機関の施設や人材の効果的な活用の在り方について、各学校の実態に応じて研究する必要がある。

②　「生活者の視点」について

生徒は無意識のうちに歴史的事象に対する「生活者としての視点」をもって学習しているが、それを資料や確かな根拠に基づいて発表することは中学生の段階ではむずかしいことがわかった。

今後は、「どのような歴史的事項を通して考えさせるか」「生活者の視点にふれた生徒の発表に対する教師の補助的な質問」等の在り方について研究していく必要がある。

Ⅳ　公民的分野の研究内容

1　研究構想図

共通研究主題

主体的な学習活動を通して、「生きる力」をはぐくむ指導の工夫

社会科研究主題

社会的事象への関心を深め、主体的に学習に取り組む生徒を育てる指導法の工夫

必要とされる能力・態度

① 個性を尊重し、個々の興味・関心を深め、自ら進んで学び続ける態度
② 自己の課題を発見し追求する能力、主体的に思考・判断する力
③ 自己の考えや主張を持ち、他者との協調の中で、相互に情報や意見を交換しあい、多角的に判断し、課題を深めようとする力

生徒の実態

① 社会的事象や社会的諸問題に、興味・関心をもつ生徒は多い。個々の経験や知識に差異があり、一人一人の興味・関心が異なる。
② 授業で疑問に感じたことを、追求する学習経験が少ない。
③ 授業での率直な話し合い活動が不足しているため、積極的に発表する機会が少ない。

研究主題

現代社会の諸問題を自分とのかかわりでとらえ、主体的に生きようとする意欲や態度を育てる指導法の工夫

研究のねらい

① 現代の社会における様々な問題を自分の生き方につながる課題としてとらえ、生涯にわたり学ぼうとする意欲や態度を育てる指導法を明らかにする。
② 生徒が身近な問題の中から課題を見つけ、解決しようとする態度を育成する指導法を明らかにする。
③ 生徒相互の話し合い活動を促し、生徒が主体的に取り組む学習の指導法を明らかにする。

主題設定の理由

① 生徒の身近な問題について考えさせる学習を通して、現代における様々な課題について主体的に考えようとする態度を育成するとともに、自己の生き方につなげる問題として、生涯にわたって学び続ける態度を培う。
② 生徒の身近な生活や経験に基づく社会的事象を取り上げることにより、高度で抽象的になりがちな公民的分野の学習内容を、生徒の発達段階に即した具体的な学習内容として構成する。
③ お互いの考えを交流させる話し合い活動により、相互理解を深め、多様な価値観を理解するとともに、様々な意見や立場を尊重しようとする態度を養う。

研究の仮説

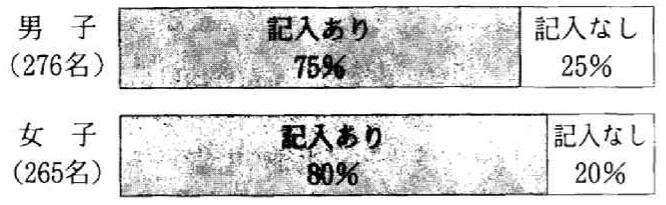
① 生徒の生活体験や経験を生かした指導計画や学習内容の工夫により、社会的事象を自分とのかかわりとして考えようとする意欲や態度が育成される。
② 生徒が自ら課題を見つけ、解決しようとする学習を取り入れることによって、主体的に学習に取り組み、生きる力を身に付けることができる。
③ 生徒相互の話し合い活動を工夫することにより、様々な意見や立場を尊重する態度が育成される。

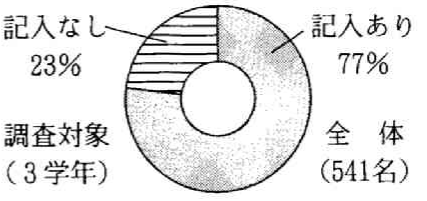
研究の方法と内容

① 社会的事象を生徒自身の課題としてとらえられるような学習内容を検討する。
② 生徒相互の話し合い活動を通し、様々な意見交換へとつなげる授業を行う。
③ 指導計画に基づく検証授業の実施及び授業の分析と考察を行う。

2　生徒の実態（下記のアンケートの結果による）

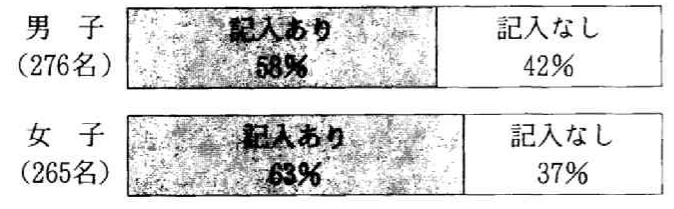
〔質問１〕〔新聞やニュースなどで見たり聞いたりした事〕の中で、「これはおかしい」「これではいけない」「問題がある」「何とかしなければいけないのでは」と、あなたが思っていることを書いて下さい。

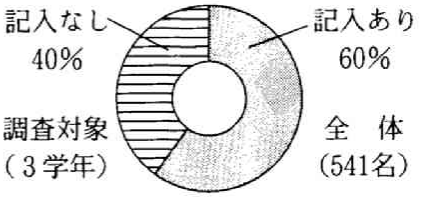




男女合わせて４分の３以上の生徒が、「世の中の出来事」に対して何らかの問題意識をもっていることが分かる。女子の方が問題意識の割合が高く、また記入内容は下記の質問２の記入例との重複が多く、ほとんど同じである。

〔質問２〕〔新聞やニュースなどで見たり聞いたりした事〕の中で、「自分に関係がある」とあなたが思っていることを書いて下さい。





質問１の結果よりやや少ないが約６割の生徒が「世の中の出来事」が「自分」に関係あると考えており、また身近な問題としてとらえていることが分かる。女子の意識の割合が高く、記入内容でも自分の考えを明確に記述しており、男女差が見られる。

【質問２、記入例一部抜粋】

(1)　教育、ボランティア、いじめ、将来、少年犯罪などについて他人のことだと思わず自分でも考える必要があると思う。

(2)　地球温暖化。みなさんは電気を節約したりなるべく車で移動しないなどと言っていたが、ニュースなどでとりあげられなくなるとすぐ忘れる。愚かしいと思った。

(3)　今回の参議院選挙を見て自分が有権者になった時、今後の日本をよりよくするためにも、他人事じゃないなと思った。

(4)　少年犯罪。やった人の年齢が近いからなんか身近すぎる。もしかしたら、私の身のまわりでも起こるかも…と思うとすごくこわい。

【質問２、記入例で多い内容】

(1)　少年犯罪問題　28人　　(2)　消費税　25人　　(3)　中学生犯罪事件　20人

(4)　いじめ　20人　　(5)　環境問題　18人　　(6)　ナイフ事件　12人

(7)　ダイオキシン　10人　　(8)　選挙　10人　　(9)　地球温暖化　９人　大気汚染　９人

3　検証授業Ａ

(1)　指導計画

①　単元名　「個人と社会」－家族をとおして社会を見つめよう－

②　単元の指導目標

ア　架空の家族を作りながら、現代の家族が直面する諸問題について考え、個人と社会とのかかわりを理解させる。

イ　現在の家族制度が個人の尊厳と両性の本質的平等に基づいていることの意味を理解させ、家族の望ましい人間関係について考えさせる。

ウ　高齢社会に直面した現代の社会生活における様々な問題を、自己の生き方につながる問題として主体的に考えさせる。

③　指導計画

	学習内容	学習活動	指導上の留意点	資料
第1時	法の下の平等、憲法、民法の家族の規定	・ゲームを行い、二人組をつくる。 ・親との同居、共働き、姓の変更等の問題を話し合い解決策を考える。	・ゲームは、人間関係を深めるための雰囲気づくりとする。 ・二人組は、架空の家族となる。	資料 ワークシート
第2時	出生率の低下 家族形態の変化 男女雇用機会均等法	・ゲームを行い、４人組となり、出産、育児、仕事、家事分担について話し合い、解決策を考える。	・４人組は、核家族を表している。 ・出生届に該当事項を書きながら、話し合わせる。	出生届 ワークシート
第3時	高齢社会の問題 ・人口動態 ・年金医療負担 ・介護問題	・高齢社会の問題点を教師の説明を聞き、前時の４人組で話し合う。 ・高齢社会に対する地方公共団体の取組みを調べる。	・自分の身の回りにある問題に気付かせる。	区役所が発行している資料
第4時	男女平等社会の在り方	・各自で「ジェンダーチェック」を行う。 ・ゲームを行い、新たな４人組で、男女平等の社会に必要なことを話し合い、意見をまとめる。	・「ジェンダーチェック」を行う際、家族のプライバシーに配慮する。 ・家族の在り方は多様であることを確認する。	東京女性財団作成のパンフレット

(2) 本時の展開例

① 検証授業のポイント

ア 架空の家族を構成していくことが生徒の興味・関心を高めるのかどうか。

イ 生徒相互の話し合いが主体的に学習する態度を育てるのかどうか。

ウ 生徒相互の話し合い活動が、様々な意見や立場を尊重する態度につながるかどうか。

② 本時の展開

	学習内容	主な学習活動	指導上の留意点	資　料
導入		・ゲームを行い、二人組をつくる。	・二人組を架空の家族とし、組み合わせは男女にこだわらない。	「出会いのたのエクササイズ」
展開	・法の下の平等 憲法、民法の家族の規定 ・夫婦別姓 ・男女雇用機会	・結婚についての制度や諸問題について教師の説明を聞き、考える。 ・夫と妻の立場に立って以下について話し合う。 Q1 「結婚したら、姓はどうするか」 Q2 「お互いの仕事はどうするか」 Q3 「結婚したら親と同居するか」 ・教師の説明を聞き、Q1～Q3についての二人の結論を出し、ワークシートに記入する。	・憲法14条、24条、民法における規定にふれる。	事前学習プリント ワークシート
まとめ		・数組が結論を発表し、質問や意見を述べる。	・ワークシートは回収する。次回は、出産、育児について考えることを伝える。	区役所が発行している資料

③ 評価の観点

ア コミュニケーション活動に積極的に参加し、だれとでも対話をすることができたか。

イ 婚姻の意義を多様な面でとらえ、理解することができたか。

ウ 話し合いを行う時、男女平等の視点に立って考え、適切な話し合いが行えたか。

(3) 授業の概要

① 〔導入〕では構成的グループエンカウンターで用いられるようなウォーミングアップ（「出会いのためのエクササイズ」と名づけた）を行わせた。これは質問用紙を持ち、教室内を自由に歩きながら相手を探し、じゃんけんをするものである。そして勝った方から質問を行い、該当する質問に「はい」と答えた生徒の名前を記入する。この活動は人間関係を深めたり、授業へと気持ちを切り替えるのに役立った。徐々に交流が深まり、おおむね仲の良いもの同士がかたまったり男女が分かれたりせずに、ゲームを行っていた。約5分で終了した。その後、架空の家族（夫婦）づくりのための「相手探し」を行った。これは1枚の絵を無造作に2つに破り、配られた自分の絵と同じ組み合わせの相手を探す活動である。再び生徒は座席を離れ自由に動き回りながら相手を探していた。相手が見つかった二人組は、座席を移動し、近くに座るようにあらかじめ指示した。ここでは10分弱の時間がかかったが、ほぼ全員が互いに声をかけあっていた。

② 次に、教師が最近の未婚者の増加や初婚年齢の上昇、夫婦別姓の問題などについて資料をもとに説明した。

③ 本授業の主な活動として、結婚した場合、「夫婦の姓はどうするか」「お互いの仕事はどうするか」「親と同居するか」について、架空の夫婦単位に話し合わせた。交互に自分の考えを発表させたが、予想以上にお互いに向かい合いながら熱心に自分の意見を発表していた。その後、二人の結論を出すための話し合いを約5分程度行わせた。

④ 話し合いのまとめを各自ワークシートに記入をさせた。記入に5分の時間を用意した。

⑤ この後で教師が憲法24条の内容を板書し、「法の下の平等」について説明した。

＜授業についての補足＞

本授業は、話し合い活動そのものに重点を置いたので、話し合いの内容については特に評価を求めなかった。それは、「生きる力」の育成には「社会生活を営む上で必要とされる知識・技能・態度を確実に身に付ける」ための学習だけではなく、「生徒たちが友達や教師と共に学び合い、活動する中で、存在感や自己実現の喜びを味わうこと」が重要であると考えたからである。なお、知識・理解の部分についてはワークシートの記入によって補うこととした。夫婦にかかわる問題については、「家事はだれが何をやるか」という視点から話し合わせた。その際、家族（夫婦）の問題は導かれる結論がそれぞれ違ってもよいということを強調した。大切なことは結論に至るまでの話し合いであり、その話し合いの中でお互いを尊重し合う関係、さらに男女の本質的平等を意識した関係が成立するかどうかということであると考えたからである。

(4) 授業の考察

① 生徒の生活体験や経験を生かした指導計画や学習内容の工夫により、社会的事象を自分とのかかわりとして考えようとする意欲や態度が育成されたか。

家族という一番身近な題材を扱ったので、生徒にとっては自分たちの生活と関連付けながら授業に参加することができた。家族を取り上げる場合、家族のプライバシーについて十分配慮することが大切であるが、本時においては将来の家族（夫婦）という設定によるシミュレーションを行いながら学習していく形態だったので、約6割の生徒が「とても興味がある」と答えていた。

また、授業の導入において「出会いのためのエクササイズ」というゲームを行った。生徒の感想では「楽しかった。相手の知らない面がわかった。」など肯定的なものが約7割を占めた。資料プリントを活用しながら考えさせたので、自分と社会との接点を生徒自らが見出すことができた。ただ、家族の問題のどの観点について深めていくべきなのか、ねらいが不十分だった。ねらいをより明確にした授業を構想する必要がある。

② 生徒が自ら課題を見つけ、解決しようとする学習を取り入れることによって、主体的に学習に取り組み、生きる力を身に付けることができたか。

結婚という事例を通して、夫・妻のそれぞれの立場に立って、姓・仕事・親との同居という問題を考えさせた。将来直面する問題であり、また、現在そのような問題を身近に感じている生徒がいることも予想されたが、授業の後で、「授業前に比べ家族や夫婦、男女の在り方などについて自分の考えが深まった」と答えた生徒が約6割あった。また否定的な意見は、ほとんど見られなかった。感想の中では、「互いに尊重し合い、理解し、協力していくことの大切さについて考えることができた」という内容のものが多かった。家族の問題を考えることが生徒にとって「生きる力」を身に付けることにつながると考えられる。このように授業の最初にまず生徒が将来直面すると思われる家族の問題を取り上げることで、生徒にとってはやや概念的な理解となりがちな憲法や民法における家族の規定や男女平等の考え方に対しても、主体的に理解しようとする態度が養われていくだろう。

③ 生徒相互の話し合い活動を工夫することにより、様々な意見や立場を尊重する態度が育成されたか。

今回の検証授業は、生徒の話し合い活動を行わせることを指導の重点とした。「1対1」での話し合いについて、否定的な感想を書いた生徒はほとんどいなかった。「最初は緊張したが、自分の意見を言えたので楽しかった」「相手の考え方や自分の意見に対する相手の考え方もわかったのでとてもいいと思った。」などの感想が多数であった。話し合い活動の中で、相手の意見や考え方を尊重しようとする態度が見られた。

しかし、1対1の場合、話し合いの内容が全体に伝わりにくい面がある。それを補助するためにワークシートを利用し、話し合い活動を継続的に発展させていくことが大切である。今後の課題は、1対1の対話→班などの話し合い→クラス全体の意見交換→個人へ戻すという流れをつくり、自分の考えを見つめ直す機会とした指導計画とすることである。

4　検証授業Ｂ

(1)　指導計画

①　単元名　「生活と経済」

－社会生活における労働の意義と役割、労働組合の意義及び労働基準法の精神－

②　単元のねらい

ア　身近で具体的な事例を取り上げ、職業が社会的分業の一部を分担することによって社会に貢献するものであるとともに、自分の個性を生かすものであることを理解させる。

イ　職業選択の自由が保障されていることや、勤労が国民の権利であり義務であることについての理解を深めることによって正しい職業観の基礎を育てる。

ウ　労働者が主体となって自主的に労働条件の維持改善その他経済的地位の向上を図ることを主たる目的として組織されている労働組合の意義を明らかにする。

エ　労働条件について労働者が人たるに値する生活を営むための最低の基準を法的に規定して労働者を保護しようとする労働基準法の精神を理解させる。

③　指導計画（６時間扱い）

	学習内容	学習活動	指導上の留意点	資料等
第1時	・中卒者求人、求職状況、主な職種 ・職業観に関する調査	・資料から情報を読み取る。 ・ワークシートに各自記入する。 ・ゲームを行い、グループをつくる。	・資料の補足を簡単に行なう。 ・調査の設問は、具体的なものとする。	資料プリント1 ワークシート1
第2時	・求人票作成	・グループで中卒用求人票を記入する。	・事業内容、職種の項目はあらかじめ指定しておく。	中卒者用求人票用紙
第3時（本時）	・就職活動シミュレーション ・労働基準法、男女雇用機会均等法、憲法	・自分が選んだ企業（店）とその企業を選んだ理由をワークシートに書く。 ・他のグループと求人票を交換し、労働基準法等の法令に反している部分をさがす。	・グループで探しワークシートに記入させる。	ワークシート2
第4時	・パートタイム労働 ・労働条件	・パートタイム労働（アルバイト）の長所、短所をグループで話し合う。 ・話し合った内容を発表しあう。	・特に労働条件の違いに着目させる。 ・話し合った内容、発表内容、感想をワークシートに書かせる。	資料プリント2 ワークシート2
第5時	・過労死 ・長時間労働、単身赴任、職場のいじめ等	・過労死した人の例をもとにもし自分だったらどうするかをグループで話し合う。 ・過労死以外で今日本で問題となっている労働問題を確認しあう。	・グループ内で一人司会を決めさせる。 ・必ず一人一回は発言するというルールを指示する。 ・話し合った内容、発表内容、感想をワークシートに書かせる。	ワークシート3 資料プリント3
第6時	・労働組合の意義 ・単元のまとめ	・様々な労働問題に直面したときの対応を考える。 ・各自で職業観に関するレポートを書く。	・労働組合の意義等にふれる。 ・資料プリント、ワークシートを見ながら記入する。	ワークシート4

⑵　本時の展開例

①　指導目標

ア　身近で具体的な事例の体験活動として「就職活動シミュレーション」を行うことにより労働条件等労働問題に対する生徒の興味関心を引きだす。

イ　「労働基準法の精神」について生徒が自ら課題を見つけようとする学習を取り入れることにより生徒が主体的に学習に取り組もうとする意欲や態度を養う。

ウ　お互いの考えを交流させる話し合い活動を授業に取り入れることにより、相互理解を深め、多様な価値観を理解しようとする態度を培う。

②　検証のポイント

ア　「就職活動シミュレーション」等の事例（体験）学習により、生徒の学習意欲を高めることができるのか。またそれらの学習により、労働に関する諸問題を自分とのかかわりとしてして考えようとする意欲や態度を育てることはできるのか。

イ　本時の「労働基準法の精神」についての学習が生徒の主体的な学習となるのか。また、それらの学習をとおして生きる力を育てることはできるのか。

ウ　本時の話し合い活動は、主体的に学習しようとする態度を育てることにつながるのか。また、様々な意見や立場を尊重する態度を育てることができるか。

③　展開例

	学習内容	学習活動	指導上の留意点	資　料
導入	・本時の目標・内容		・前回の授業との関わりにふれる。	
展開	・就職活動シミュレーション ・労働基準法、男女雇用機会均等法、憲法	・各グループの作った求人票を見て、一つの企業（店）に自分が実際に就職することを前提に選びワークシートに記入する。 ・その企業（お店）を選んだ理由をワークシートに記入する。 ・隣のグループと求人票を交換し、労働基準法等に違反している部分をグループで捜してワークシートに書く。 ・書いた内容を発表する。	・なるべく具体的に書くように指示する。 ・グループで相談することを促す。 ・書いた内容を何人かに発表させる。	ワークシート 教科書 資料集
まとめ		・本時の感想を書く。	・生徒から出た意見をもとにまとめる。 ・資料プリントを使う。 ・ワークシート提出	・資料プリント ・ワークシート

④　本時の評価

ア　労働にかかわる諸課題を自分の生き方につながる問題としてとらえさせることができたか。

イ　生徒が意欲的、主体的に学習に参加していたか。

ウ　話し合いの重要性を認識させることができたか。また、話し合い活動により生徒間の相互理解を深めることができたか。

(3) 授業の概要

T：前時の授業で、12のグループに分かれてそれぞれ会社の社長になったつもりで、求人票を作成してもらった。きょうは、自分が中学校を卒業後に就職すると仮定して、各グループが作った求人票を見て歩き、一つの企業（店）を選び、ワークシートに記入しなさい。またその企業（店）を選んだ理由もワークシートに記入しなさい。

── 各自、求人表を見ながら、ワークシートに記入する。

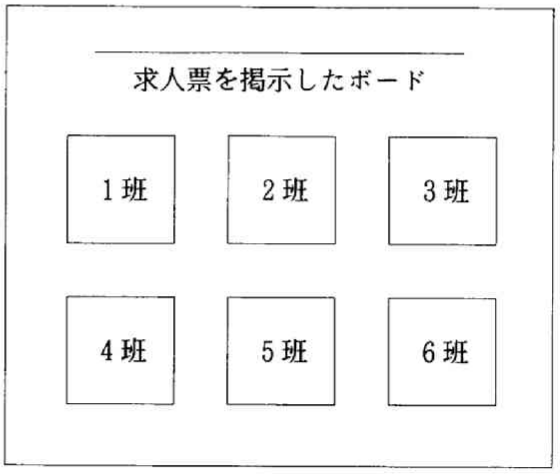
T：それでは、発表して下さい。

S1：「ラーメン専門店ムッコス」を選んだ。
理由…駅に近くて、退職金もでる。保険にたくさん入っているから。

S2：「裏拳（中華料理店）」を選んだ。
理由…基本給が高い。労働条件が良いので。

S3：「裏拳（中華料理店）」を選んだ。
理由…交替制で、基本給が高いので。

S4：「チャイナハウス（中華料理店）」を選んだ。
理由…基本給が高くて、休みが多いので。



T：仕事を選ぶとしたらどういうことで選ぶかというと、興味・関心があって、自分の能力を生かせる仕事ということになるだろう。

では次に、日本には、労働基準法という法律がある。労働条件の最低条件を示した法律である。隣のグループと求人票を交換して、労働基準法に違反している部分をグループで調べワークシートに記入しなさい。

S5：労働時間が8時間を越えている店がある。

S6：有給休暇が示されていない店がある。

T：労働基準法は、労働者の権利をを守るために定められた法律です。また使用者に対しては、労働者との間で契約する時に最低限度の条件を定めたものです。将来、きみたちが職業につく場合の選択の基準として是非、この法律のことを思い出して下さい。それでは、きょうの授業の感想をワークシートに書いて下さい。

(4) 授業の考察

① 「求人票」の作成や疑似体験活動としての「就職活動のシミュレーション」などの体験的な学習活動を取り入れたことは、生徒が主体的に学習に参加しようとする意欲を高めるとともに、生徒の企業や職業及び勤労に対する認識を深める上で効果的であった。

＜生徒の感想より＞

- 「いつもは店の利用者の立場からしか仕事というものを見ていなかったので、店の立場から店のことを考えることができてよかったと思った。」
- 「こんなふうにして、仕事について考えたのはなかったので、いい勉強になった。」
- 「働くということについて、初めて詳しく学べて結構おもしろかった。」
- 「会社の立場に立って物事を考えてみると、会社はどういう考えで人を雇おうとしているかがよくわかった。」

② 「就職活動のシミュレーション学習」は、今日の日本における労働に関する諸問題を、自分との関わりで主体的に考えようとする態度や、職業の選択を将来の生徒自身の生き方と関連させて考えようとする態度の基礎を育てる上で効果があった。

＜生徒の感想より＞

- 「自分の将来にためになるたくさんのことを学ぶことができたので、よかった。」
- 「求人票を作ってみて、自分の望んでいるような条件をそろえた仕事を見つけるのはなかなか難しいなと感じた。」
- 「パートタイムで女性の方が多いのは、まだ職場での男女の不平等があるからなのかなと不思議に思った。」
- 「求人票にはいろいろなことが書いてあるので、すみずみまでちゃんと見ないと落とし穴があると思った。」

③ 「労働基準法」を生徒にとって身近な問題として考えさせる上で、生徒自身が「求人票」を作成したり、「求人票」を見て職業を選択させる学習は効果的だった。また、「労働基準法に違反している会社（店）はないか」についての班単位での話し合い活動を取り入れたことは、生徒の学習への参加をより積極的なものとする上で有意義だった。

＜生徒の感想より＞

- 「今まで読んだことのなかった労働基準法や最低賃金法を勉強することができた。」
- 「今回は班のみんなと相談して、意見を出したりしたのがすごくよかったと思う。特に、職業を自分で選ぶ授業ではみんなのいろいろな意見が聞けておもしろかった。」
- 「8時間以上働かせてはいけない」という労働基準法があるのでそれを考えながら求人票を作成したので大変でした。」

5　研究のまとめと今後の課題

(1)　研究のまとめ

①　生徒の身近な生活や経験を取り上げた授業は、社会的事象に対する関心を深め、生徒の主体的な学習を促すことができる。

公民的分野では、今日の社会的諸問題の中から、「家族」に関する単元と「労働」に関する単元を取り上げ、検証授業を通じて研究を行った。検証授業の感想等から、疑似的な体験活動であるが、授業前にわれわれがが予想していた以上に真剣に取り組んでいた。その理由としては、中学校３年とい発達段階において、「結婚」や「就職活動」は将来、すべての生徒が必ず直面する問題であったからであると考えられる。このことから、生徒の発達段階に即して、生徒の身近な生活や経験を取り上げて授業を行えば、社会的事象に対する関心を深め、生徒の主体的な学習を促すことができることがわかった。

②　自分の考えを表現したり、相手の考えを知るための話し合い活動は、生徒の協調性や多角的に物事を考え、判断する力を養う。

「家族」の授業においては「１対１」の話し合い活動、また、「労働」の授業ではグループによる話し合い活動を行わせた。特に、「１対１」の話し合いの活動の場面では、どちらかが必ず発言しなければならない状況を作ったため、自分の考えを的確に表現したり、相手の考えをしっかりと受け止めなければならないことから、普段の生活ではないような深い話し合い活動が展開された。また、グループによる話し合い活動においては、自分の意見だけでなく相手の意見を受け入れながら話し合いを行っていた。このように、話し合い活動を取り入れた授業は、生徒の協調性や多角的に物事を考え、判断する力を養うことがわかった。

(2)　今後の課題

①　話し合い活動を取り入れた学習の効果を高めるためには、話し合いのための適切な課題の設定と指導計画上の位置付けを行う必要がある。

話し合い活動を取り入れた学習においては、多くの生徒が取り組みやすい課題を設定するとともに、話し合われた内容が学級全体のものになるよう発表の場を確保する必要がある。話し合い活動だけで授業が終了することのないよう、時間の配分や発表の方法等指導計画に適切に位置付けることが大切である。

②　現代社会の諸問題を自分とのかかわりでとらえさせるためには、生徒の発達段階に即したテーマを考えさせ、自ら課題を見つけ、解決していこうとする態度を身に付けさせることが大切である。

現代の社会には様々な問題があり、中には深刻なものや解決がむずかしいものもある。また、内容の取り上げ方においては、生徒に対して社会に対する否定的な考えをもたせてしまうものもある。

したがって、現代社会の諸問題を考えさせる学習では、生徒の発達段階に即し、かつ生徒自らが考えてみたいとするテーマを選択するとともに、単なる「知識」の理解に終わるのではなく、自分の生活や将来の生き方の中で解決しようとする態度を養うことが重要である。